

QCサークル活動を活用した若手社員教育の支援

企業紹介

南信州菓子工房株式会社

- 代表者：木下裕亮
- 所在地：下伊那郡阿智村春日3291-1
- 従業員数：120人
- 事業内容：食品製造販売(ドライフルーツ)
- 連絡先：0265-43-5211



工場外観

南信州菓子工房(株)は豊かな自然に囲まれた長野県下伊那郡阿智村で2012年に創業し、国産の果実、野菜など自然素材により、これまでにないこだわりの「半生」ドライフルーツを提供しています。

支援を受けて

中期計画で社員教育の充実を掲げスケジュール化を図りました。事業規模の拡大に伴い社員のスキル向上が必須事項となり、短期で社員教育の基礎を築く必要があります。当社と共にこの課題に取り組んで頂ける商工会に支援をお願いし若手社員の教育が始まっています。これからも引き続き宜しくお願い致します。



木下社長

支援概要

■企業の現状・課題及び支援の経緯

同社は事業の急速な拡大に対応する為、新規社員の採用を急ピッチで進め、若い世代の社員が大半を占める体制になった。そこで同社は独自の若手社員教育を計画したものの、事業の繁忙さから従業員を生産現場から外すことも難しく、計画通り社員教育を進めるには困難な環境であった。

会社への帰属意識を持ち、将来を支える社員を如何に育てるかが、同社における目下の大きな課題である。そこで商工会に支援の相談があり、「QCサークル活動」を活用した若手社員の教育に取り組んだ。



「半生」ドライフルーツ商品



QCサークル活動風景

■実施した支援内容

同社が選出した若手社員10名に「QCの7つ道具」を中心とした座学を行い、ものづくりにおいて生産現場で生まれるデータが如何に重要であるかなどについて講義した。また、「QCサークル活動」の基礎を指導し、若手社員10名を2つのサークルに分け「QCサークル活動」を実践した。社員が自分で考え、自分で行動し、自分で達成感を味わう、また仲間と相談し自分の考えを相手に理解してもらうまであきらめずに語る、そんな社員を一人でも多く育てる仕組みづくりを目標に支援を行った。

支援の結果及び今後の展開等

QCサークル活動の総括は全社発表会で行われることが基本であるが、まだその段階には至っていない。しかし以前あまり発言がなかったメンバーも徐々に自分の思いを伝えることが出来る様になり、活気あるQCサークル活動を進めている。今後はこの活動が全社に広がり、より進んだ改善活動に結び付けられるよう継続支援していく。また、社員自ら「QC検定」などへ挑戦する気風がこれから生まれることも期待している。

支援を実施して

若手社員に対し、QCサークル活動を通してデータは現実を正しく評価し将来のあるべき姿へ導くものであることを指導しました。

この支援が同社の生産活動また改善活動に寄与することを期待し、今後も同社発展のお手伝いが出来ればと思います。



首席専門経営支援員
西川 登



阿智村商工会
主任経営支援員 今井 毅